



潮流

鳥取県中部医師会は昨年度に引き続き、たばこの被害から住民を守る第二回中部住民健康フォーラムを開催しました。昨年度は、中部地区をたばこ被害から守り、日本一きれいな空気と美しい都市づくりを目指し、子どもたちに無煙環境を推進することを宣言し、

NPO法人未来副理事長
鳥取県中部医師会副会長

松田 隆

①全地域で路上喫煙を禁止する②公共施設・企業内は敷地内禁煙にする③子どもへの防煙教育の徹底④医師会員の喫煙0%への推進を掲げ、今年度はこれらを踏襲する形で開催しました。

基調講演では中部医師会の河本知秀先生が、夫の喫煙や職場で他人のたばこの煙を吸わされる受動喫煙で、たばこをまったく吸わなかった女性でも肺癌になつたり、子どもが将来喫煙する人が多くなつたりすることになりました。

また、先日映画「シッコ」上映後のアンケートで、すこしの歩道で禁煙すべきと答えた方が71・2%、

観光地や小中学校の通学路の禁煙が20・7%あり、私が小学生に行った結果とほぼ一致し、多くの方が路上喫煙禁止を望んでいることが分かりました。

また、たばこ税収からの試算で倉吉市の喫煙者は約一人で、昨年は約八百五万人で、十人が禁煙したことになります。また、産業医の行つた企業の喫煙率は10%~50%と、企業間での競争で喘息発作が起つてきます。また、静岡市で歩きたばこの受動喫煙で喘息発作が起つた中学生が議会に訴えて条例ができたように、今後倉吉市でも市民運動として住民の健康を守り、また、海

開催にあたって、ようよとも話され、あらためて受動喫煙の怖さを再認識しました。

い医療をこうぞし(志)、医療の連携を図る医師会、歯科医師会、薬剤師会で構成される三志会の協力が得られたことは、住民の健康を守る意味で意義深く、今後も連携していきたいと考えています。

また、たばこ税収からの試算で倉吉市の喫煙者は約一万一千人で、昨年は約八百五十分の四分の一がたばこ

によって、たばこを吸いました。

たばつきが大きく、敷地内禁煙は8%とまだ少なく、逆に、喫煙対策をしていない

路上喫煙禁止条例

鳥取県医師会の調査では16

・8%、今回行った中部医

師会の調査では10%と減っ

てきました。また、産業

医の行つた企業の喫煙率は10%~50%と、企業間での

競争で喘息発作が起つてきます。また、静岡市で歩きたばこの受

動喫煙で喘息発作が起つた中学生が議会に訴えて条例ができたように、今後倉

吉市でも市民運動として住民の健康を守り、また、海

合せは電話0858(2)9791、NPO未来

たいという子どもたちが減っていることも報告され、さらに四月発売予定の経口禁煙補助薬への期待が寄せ

ます。

また、先日映画「シッコ」上映後のアンケートで、すこしの歩道で禁煙すべきと答えた方が71・2%

いたところも8%あり、労働の吸い殻で、温室効果ガスから環境を守るという意味からも、フォーラムに参加された市議会議員さんの協力も得ながら、路上喫煙禁止条例ができることを期待したいと思います。

今年も中部地区のきれいな空気を吸いながら、風を感じて歩く第八回日本海

来ウォークが五月十日、十日に開催されます。十日には大韓ウォーキング連盟

の季康玉教授の子どもの足の発達とウォーキングについての講演会も開催されます。

多くの方のご参加をお待ちしております。お問い合わせは電話0858(2)9791、NPO未来